

# オランダ輸出実証試験報告書

## 1. 日程スケジュール

項目	日付	場所
パッキング	2017年8月25日	F A J
国内移動	2017年8月25日	F A J → 成田空港
花材輸出	2017年8月26日	成田空港
花材到着	2017年8月26日	アムステルダム
納品先確認	2017年8月28日	a, b, c 店頭
経過確認	2017年8月28～29日	a, b, c 店頭

## 2. 箱数と試験区分について

### 処理区

箱サイズ	詰め方と本数	箱数 1か2ケース	包装資材	内容物の記載
大	通常量 20本	1	既存の資材で 包装	トルコギキョウ
大	多め 30本	1	既存の資材で 包装	トルコギキョウ
大	通常量 20本	1	リブロングシ ートで包装	トルコギキョウ
大	多め 30本	1	リブロングシ ートで包装	トルコギキョウ
大	通常量 150本	2	既存の資材で 包装	リンドウ
大	多め 200本	1	既存の資材で 包装	リンドウ
大	通常量 150本	2	リブロングシ ートで包装	リンドウ
大	多め 200本	1	リブロングシ ートで包装	リンドウ
大	通常量 12本	1	既存の資材で 包装	ハイドランジア
大	通常量 12本	1	リブロングシ ートで包装	ハイドランジア

3. 評価について 概要の記載（\*品目数だけセルを増やしてください）

問題なければ問題なし、あればショートコメント（擦れあり、シミあり等）

品目名	詰め方	包装資材	傷み	鮮度感について
トルコギキョウ	通常量 20本	既存の資材で 包装	問題なし	問題なし
トルコギキョウ	多め 30本	既存の資材で 包装	問題なし	問題なし
トルコギキョウ	通常量 20本	リブロングシ ートで包装	問題なし	問題なし
トルコギキョウ	多め 30本	リブロングシ ートで包装	問題なし	問題なし
リンドウ	通常量 150本	既存の資材で 包装	問題なし	問題なし
リンドウ	多め 200本	既存の資材で 包装	問題なし	問題なし
リンドウ	通常量 150本	リブロングシ ートで包装	花の変色	問題なし
リンドウ	多め 200本	リブロングシ ートで包装	花の変色	問題なし
ハイドランジア	通常量 12本	既存の資材で 包装	折れあり	問題なし
ハイドランジア	通常量 12本	リブロングシ ートで包装	折れあり	問題なし

4. 国内のパッキング作業における箱の使い勝手について

使い易さ	大	×	問題あり
------	---	---	------

5. 外国への着荷時点での強度確認、◎○×△、ショートコメントで記載

着荷時強度	大	○	問題なし
-------	---	---	------

6. ヒアリングの結果、デザインはどうか

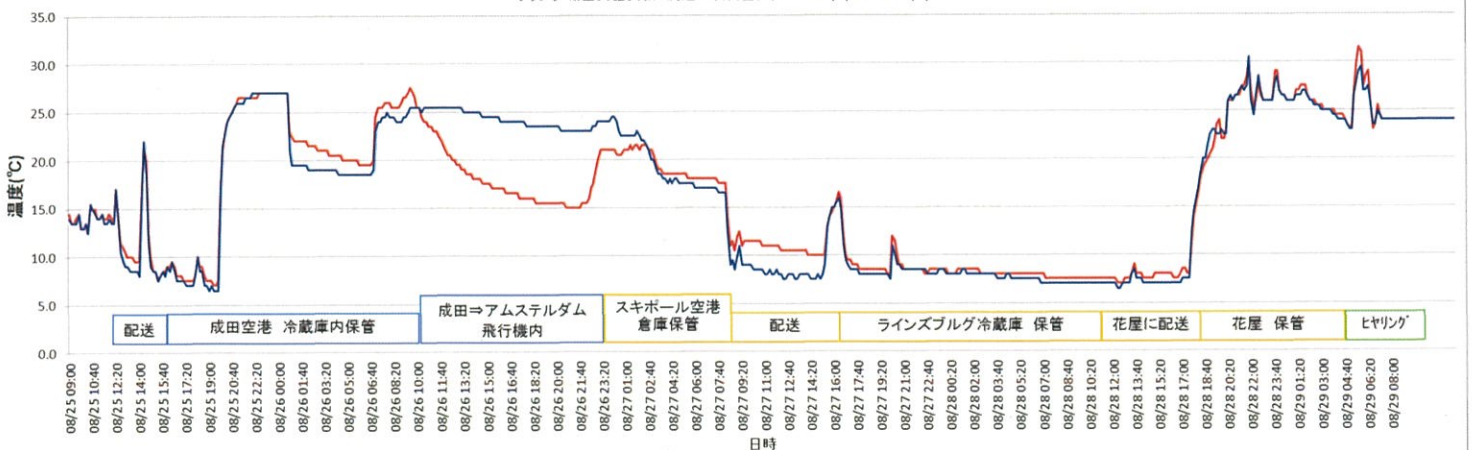
デザイン	大	△	改善の余地あり
------	---	---	---------

7. 経過観察を行った場合数日後の様子

品目名	詰め方	包装資材	数日後の様子	コメント
トルコギキョウ	通常量 20本	既存の資材で 包装	◎	
トルコギキョウ	多め 30本	既存の資材で 包装	◎	
トルコギキョウ	通常量 20本	リブロングシ ートで包装	○	蒸れ
トルコギキョウ	多め 30本	リブロングシ ートで包装	○	蒸れ
リンドウ	通常量 150本	既存の資材で 包装	◎	
リンドウ	多め 200本	既存の資材で 包装	◎	
リンドウ	通常量 150本	リブロングシ ートで包装	△	蒸れ
リンドウ	多め 200本	リブロングシ ートで包装	△	蒸れ
ハイドランジア	通常量 12本	既存の資材で 包装	○	
ハイドランジア	通常量 12本	リブロングシ ートで包装	○	

8. 温度管理について

オランダ輸出実証試験 流通温度調査グラフ 2017/8/25～2017/8/29



コメント：温度計について

⇒夏場のため温度変化がかなりあることが分かった。リブロングシートが結露した原因の一つとして到着した花屋での急激な温度上昇が考えられる。機内の温度が高い理由として、箱の置かれた場所に起因しているのではと考える。

温度時間値(平均)	882.67
-----------	--------

## 9. 箱の組み立ての様子



画像 1-1



画像 1-2

コメント：組立易さについて

⇒フラップが大きすぎて非常に組み立てづらい

## 10. 箱詰めの様子

コメント：箱詰めのし易さについて



画像 2 梱包の様子



画像 3 箱詰め後

⇒フラップが大きすぎて詰めづらい。また、あまりにも固すぎるため厚み分、幅が広がってしまうため、容積が増えてしまう。ダンボールが固すぎるため無理をすると花が折れる。

プが大きすぎて詰めづらい。また、あまりにも固すぎるため厚み分、幅が広がってしまうため、容積が増えてしまう。ダンボールが固すぎるため無理をすると花が折れる。

## 11. 輸出前の段ボールを台車に並べた際の様子



画像 4 ダンボールを台車に積載した様子（左）

画像 5 梱包後（上）

## 12. 到着時の様子



画像 6



画像 7

コメント：着荷時の強度等

⇒破損、汚れ、凹み等なし。

## 13. 納品先



画像 8

に到着した時の様子



画像 9

## 14. 箱のデザインについてのヒアリング

- ・日本語は読めないなので日本語を記載する必要はない。
- ・上下の区別がつかないため、逆さまに開けてしまう。
- ・英語記載の場所が、ちょうどガムテープで隠れてしまう。
- ・段ボールの地の色を白ではなく他の色にするのはどうだろうか。
- ・夏場は蒸れ対策として穴をあけるべきではないだろうか。



画像 10 ヒアリングの様子を撮影



画像 11-1 店頭の様子

## 総評

オランダにおいては、箱で流通する切花品目は限られている。それ故、全体的に顧客は、花とともに箱のイメージを強く持っている。箱には、品目統一で使用する通い箱もあれば、生産者が品目ごとに作成する箱もある。今回は、日本の花と日本の箱の組み合わせの評価を顧客からもらうという事業であり、現地の数社からヒヤリングを実施した。

まず、箱のダンボール品質については、高評価であった。輸送中に、花が痛むことなく輸送ができた。多少の雨などにも耐えられるのではという評価であった。

デザインについては、“漢字”から受ける日本のよい印象は特になく、漢字は読めないので必要ないという意見が多数であった。箱の色を白ではない色、日本をイメージする薄い桃色、青にしてはどうかとの意見もあった。(漢字の使用は、日本人向けであり現地では意味がない)

規格については、さらなる検証が必要である。中に入れる品目別に、高さ・幅・長さなどの再検討をおこなってはどうかという意見もあった。

ラベル表記の方法についても、流通場面や顧客が認識しやすいものを開発すべきであると感じた。また、今回使用の段ボールではガムテープを使用することになり、箱のデザインやラベル表記の邪魔になってしまう点も考慮すべきであると感じた。

さらに、中の切花が動かないよう、底面に薄いのりをつける等の検討事項もある。

今回使用したダンボールは、概ね高評価であったが、細かい改良は必要である。

今回テストした段ボールの構造のように日本国内で流通する段ボールのほとんどは蓋部分が大きく開閉してしまう片面開きの開閉タイプであるが、ガムテープを多用したりした場合など梱包によっては開閉にも時間がかかり、蓋が現地の作業場で邪魔になってしまうことがわかった。

そこで、オランダの輸出業者が輸出時に使用し、世界の輸出国の出荷者のほとんどが使用している“弁当型タイプ”の型を検討する必要があるのではないか。“弁当型タイプ”は、大量に輸出品がある場合、特に梱包作業の作業性がよくなり、強度の面などでも効果が大きい。また、すべての場面で箱を重ねる際などにメリットがでる。そして、デザイン性やラベルの位置など自由度が広がる。世界の主流であることの検討も必要と考える。



画像 11-2 店頭の様子



画像 12 店頭の様子

15. 品質調査

① トルコギキョウ (20 本 : 既存)

開梱時頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。花擦れも特になし。



画像 13



画像 14

② トルコギキョウ (30 本 : 既存)

開梱時頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。花擦れも特になし。



画像 15



画像 16

③ トルコギキョウ (20 本 : リブロングシート)

開梱時頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。リブロングシートの影響でスリーブ内が蒸れ、多くの水滴が確認できた。既存のものと特に差はなし。



画像 17



画像 18



④ トルコギキョウ (30 本 : リブロングシート)

開梱包頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。リブロングシートの影響でスリーブ内が蒸れ、多くの水滴が確認できた。既存のものと特に差はなし。



⑤ リンドウ (150 本 : 既存)

開梱包頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。花擦れも特になし。



画像 19

画像 20

画像 21

⑥ リンドウ (200 本 : 既存)

開梱包頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。花擦れも特になし。

⑤に比べても潰れていた部分がある。



画像 22



画像 23

⑦ リンドウ (150 本：リブロングシート)

開梱包頭突きは無し。保水材の水切れや花擦れも特になし。既存のもので巻いたものより花老けがみられ茶色く変色していた。リブロングシートの影響でスリーブ内が蒸れ、多くの水滴が確認できた。



画像 24



画像 25

⑧ リンドウ (200 本：リブロングシート)

開梱包頭突きは無し。保水材の水切れや花擦れも特になし。既存のもので巻いたものより花老けがみられ茶色く変色していた。リブロングシートの影響でスリーブ内が蒸れ、多くの水滴が確認できた。



画像 26



画像 27

⑨ ハイドラングア (12 本：既存)

開梱時頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。花擦れも特にないが箱が小さかったのか潰れていた。一部折れあり。



画像 28



画像 29

⑩ ハイドラングア（12本：リブロングシート）

開梱時頭突きは無し。花老けや保水材の水切れは無かった。花擦れも特にないが箱が小さかったのか潰れていた。一部折れあり。既存のものとシートのもので特に差はなし。



画像 30



画像 31

16. 結論

日本の花輸出は、輸出する花が高価格、高品質であるので、使用する箱によるブランド訴求は必須である。少量多品目を輸出するため、細かいダンボールの規格を設定し、流通段階でのコスト削減を目標とするべきである。